

「おひさま発電所」が完成

宇治・イサク事業所 障害者施設で初



屋上に敷き詰められた太陽光発電パネルを見学する職員ら(宇治市伊勢田町・イサク事業所どうほうの家)

宇治市伊勢田町の障害者就労支援施設・イサク事業所どうほうの家に、「おひさま発電所」と名付けた太陽光発電設備が完成した。自然エネルギーの普及に取り組むNPO法人の協力を受けて設置し、売電を始めた。

おひさま発電所は、認定NPO法人・きょうとグリーンファンド(京都市下京区)が地球温暖化防止を目的に

府内各地の幼稚園や保育所に設置している。寄付金や会費の基金で費用を賄っており、今回で18カ所目となった。障害者福祉施設での導入は初という。

3階建ての施設屋上に太陽光パネルを63枚取り付けた。出力は最大10kwで、発電した電力は全て売り、その収益を新たな発電所の整備に活用する。

イサク事業所でこの

ほど点灯式があり、利用者や職員らが環境にやさしい設備の完成を祝った。石崎蓉子施設長は「これを機に太陽光発電が宇治市内でも広まってほしい」と話していた。(柿木拓洋)